

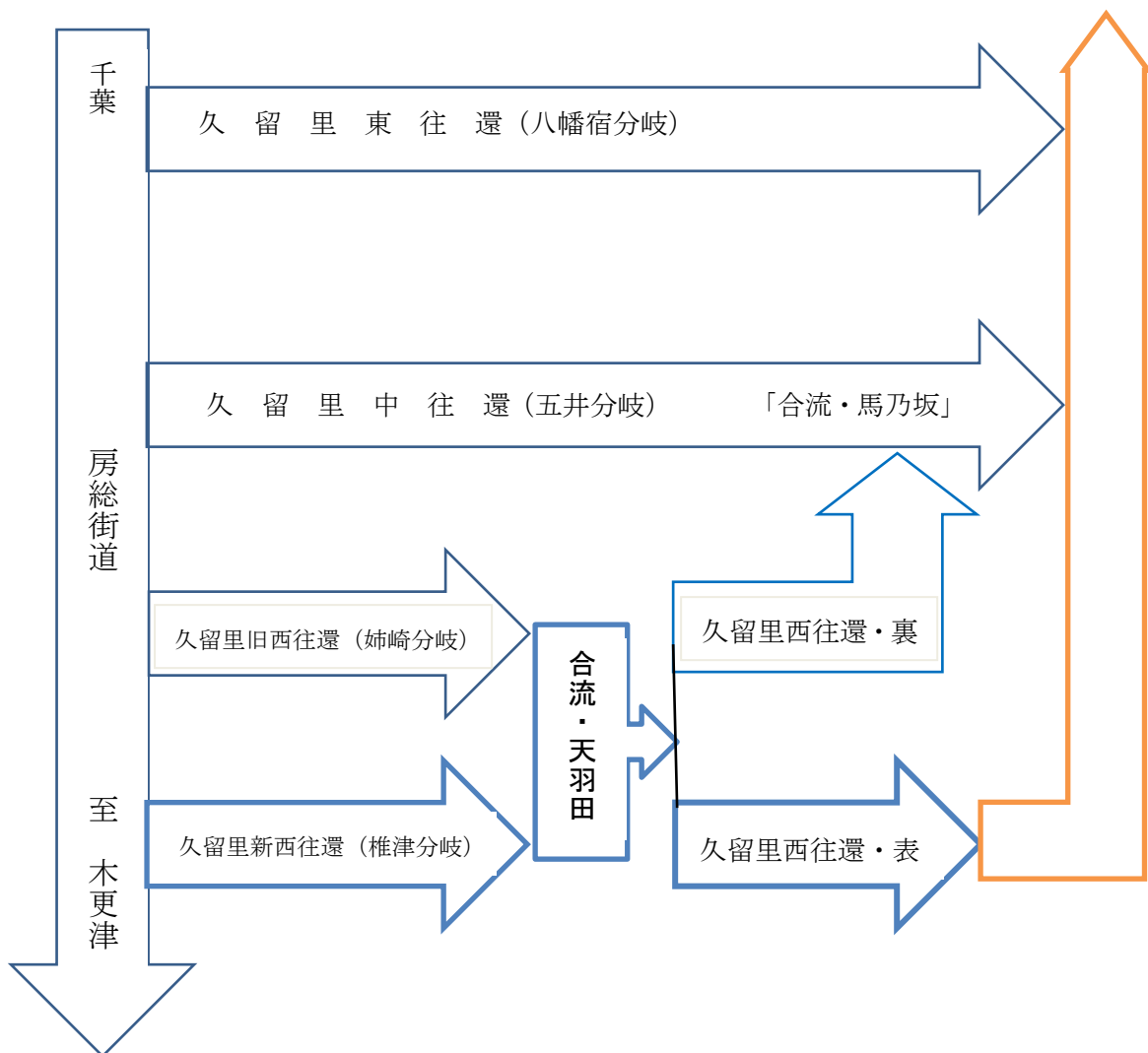
久留里西往還・表

久留里西往還の「表」とは、久留里旧西往還と、久留里新西往還が合流した後で、桜台三丁目から近い緑町の遠矢さん宅の前の三叉路を右に進む道である。

ここから坂道を下り天羽田を通り、袖ヶ浦市上泉の「出光先進技術研究所」を抜け、県道143号線を横切る。その先には「大元神社」がある。神社を過ぎると登り坂になり、やがて現在の久留里街道と合流する。

久留里街道を100m程久留里方向に進んだ所から左折し、袖ヶ浦市野里にある「平岡小学校」にぶつかる。元々の久留里往還は山際の、小学校の建物や校庭を通過していた。更に昔は製缶工場があったところに、現在は「瑞光会特別養護老人ホーム」になっているが、そこを通り現在の久留里街道を横切る形で高谷堰に向かう。

高谷堰から進むと、やがて久留里中往還と一緒にになる。



さて。ここから先が表道となる。



左：この写真の場所は、三叉路になっている。天羽田で牛を飼っている田中さんに教えてもらった、表と裏往還の別れるところである。

右（矢印方向）に行くと

「久留里西往還・表」、
左に行くと「久留里西往還・裏」。



上：久留里西往還・表、裏の分岐点

ここには「青面金剛」と「道標」が建っている。

道標は何回も刻まれた文字を、解読しようとトライしているが、一面のみはどうか読んだ。

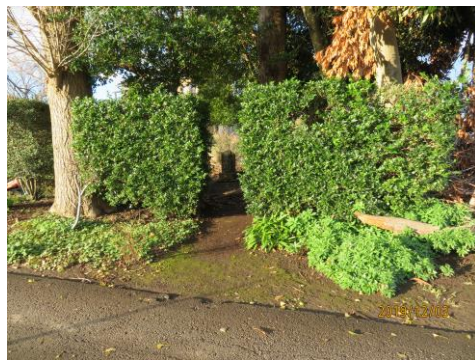
「西 十間ニテ分岐点アリ 右 山谷経テ姉崎
左 長浦村代宿 」

しかし、他の二面は未だに読み切れていない。

但し、裏道に面しているところには不確かではあるが

「大正十四年〇年天羽田青年会」と、建立者及び時期が彫られている。

右&下：久留里西往還・表道に入り200m程先の右に背の高い木が見えてくる。この木の下には、台座含めて高さ895mmの「馬頭観音」が祀られている。2019年の台風15号の強風で倒れたが、直ぐに少し位置を変えたが祀り直された。右側面には「慶応二寅年 九月吉日」とあり台座には「天羽田講中」と刻まれている。



上：西往還・表道より少し入った所に馬頭観音様が祀られている。周りは何時手手入れされている。



左：
三叉路から「久留里西往還・表」を200m程進むと右の大きな木の下に馬乗り馬頭観音様が、更に50m程進むと急な下り坂になる。この坂には名前があるだろうと、地元の方に聞いてみるが特に思い当たらないという。約200mの坂を下り切ると、三叉路になり、ここから先は平坦な道路になる。



左：天羽田

坂を下り切って平坦な道に出たところ。

坂の高低差は約25m程である。ここから、高速館山道のトンネルまでは約130mで長さ40mのトンネルを超えると、すぐ左側に安誠寺がある。



左：天羽田（トンネルから来た道を振り返る）

平坦な道を進むと、館山道の下のトンネルを通る。トンネルを出た先の左側には「安誠寺」少し進むと山の上に「天照大神宮」が鎮座している。この神社の真下には、久留里西往還について教えていただいた「広原」さん宅がある。

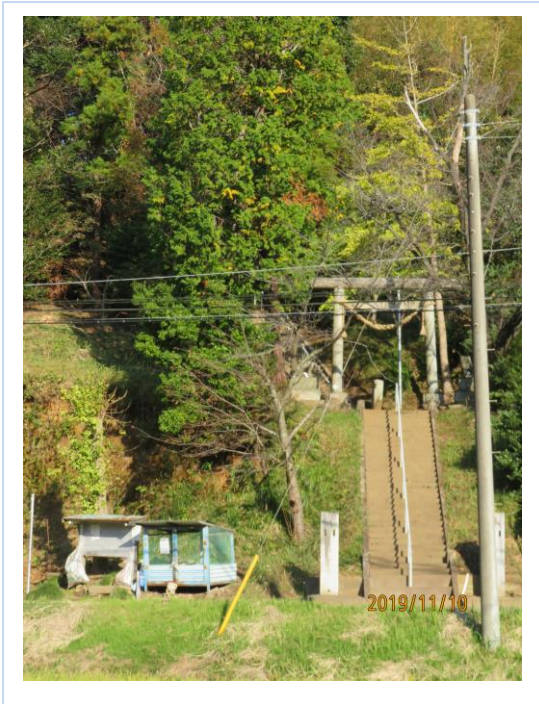
右：広原さん宅の百日紅の木

江戸時代には、久留里西往還を往来する人達の為の茶店を開いていた。

その庭には当時からの百日紅の木が今でも元気な姿を見せてくれている。

(2019・11写)





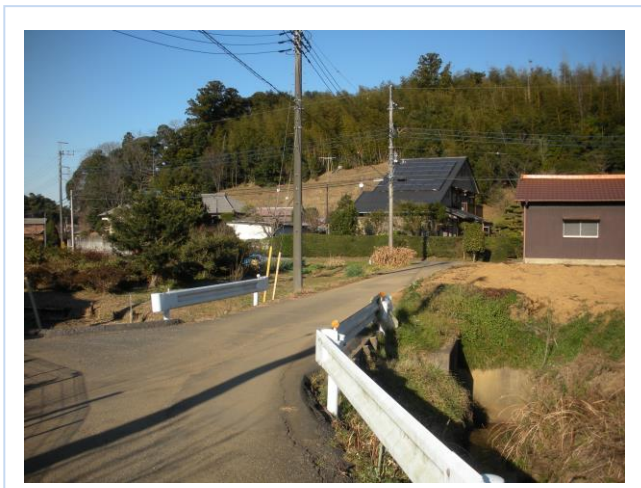
上：現在の天照大神宮鳥居
お祭りは2月28日と10月下旬の土・日にある。2月は産土のお祭りで、昔は多くの妊婦さんが訪れ安産を祈願した。広原さん宅前の山岸には霊水泉が今でもある。



上：迅速測図（明治15年7月）
姉寄新田天羽田大神宮
（現在の天照大神宮）

右：天羽田

天照大神宮から80m程進むと右に曲がる道がある。狭いがここが西往還である。
写真の後方の山の中に、天照大神宮が鎮座している。





左：天羽田

この狭い山道の登りが約430m続く。進行左側の丘を削ったような道である。明治時代の陸軍作成の迅速測図を見ると、今より谷筋に道があったようだ。

小さな沢ではあるが、雨が降ると歩きにくくなったのだろう。

其の為に山肌を削って少しでも高い所を通るようにしたと思える。

右：天羽田

山間の登り坂を更に進むとやがて、「もみの木団地」の家々が坂の上に見えてくる。



右：袖ヶ浦市上泉

坂を上り切ると、同じように坂を上ってきた、「鎌倉みち」と交差する。写真の右が団地で、鎌倉みちは写真奥方向から登ってきている。

その交点から団地の西側を南に250m程緩やかな坂を上ると、県道300号線と交差する。



右：上泉

「もみの木団地」から「出光先進技術研究所」方向を望む。

「もみの木団地」の西側を緩やかに上ると、西往還道はやがて県道300号線の交差点にさしかかる。そこを横切ってさらに写真に見える鉄塔方向に直進する。



左：上泉

「出光先進技術研究所」入り口。

(2016年7月に通ったら門柱の表示はなくなっていた、何故?)

県道300号線交差点から約500m程進むと「出光先進技術研究所」に入る。研究所は約1km程続く。さらに進むと下り坂の途中にある「愛宕・八幡神社」までは、ほぼ直線で西往還に沿った形である。しかし現在は、研究所敷地出口からは車が通るようになって大分緩やかな傾斜の道に作り替えられている。



右：袖ヶ浦市上泉

「出光先進技術研究所」の出口から緩やかな坂道を更に進むと、左手遠くに「東京ドイツ村」が見えてくる。

手前はソーラーパネル発電所である。

規律の無い開発は自然を無くしている。段々多くなった(2014年)。





左：袖ヶ浦市上泉

研究所から自動車道の坂を緩々と下ると旧道を見ることが出来る。写真では、下り方向から見て左に入る道であるが、現在の道は舗装された広い右側である。

旧道は100m程入るが、その先は完全に藪の中になっている。



左：袖ヶ浦市上泉

坂を下った右側に、神社の鳥居が建っている。

そこから石段を上がると、愛宕神社と八幡神社の二神が祀られている社が鎮座している。

土地名は根蓮岱。



左：袖ヶ浦市上泉

県道143号線を横切って直進した大元神社方向から、愛宕神社と八幡神社の鎮守の森を望む。社は森の頂上になる。

143号線との交差点は標高約24mである。



左：袖ヶ浦市上泉
 県道143号線を横切るとやがて、大元神社が左手に見えてくる。ここからは急な登り坂になる。



左：袖ヶ浦市上泉
 大元神社から坂を上がると、三叉路になるがそこを左に更に進む。

右：袖ヶ浦市上泉
 坂を上り切ると、昔からの住宅地域になる。
 （土地名：名幸台）
 この道は現在の久留里街道（県道24号線千葉・鴨川道路）に出る。
 新道に出て100m程で左折すると再度久留里西往還になる。



右：袖ヶ浦市野里

久留里西往還に入り進むと、平岡小学校にぶつかる。本来の道は小学校の校舎や運動場を突っ切るルートであったが、現存しない。現在山際によけられた道が奥へ進む。



右：袖ヶ浦市高谷

久留里西往還は、平岡小学校に入ると校庭やプールのあるところを直進し、元製缶工場の敷地内（現在は瑞光会特別養護老人ホーム）から、現在の久留里街道を直角に横切り畑地に入る。



右：袖ヶ浦市高谷

畑地に入ると、ここから高谷堰までは左手下に高谷の住宅地を見下ろしながら進む。車など入れない農道なので、踏み分け道になっている。





左：袖ヶ浦市高谷
農道をさらに進む。

右：袖ヶ浦市高谷

写真右側は畑、木が生えている。
左下には住宅地が広がっている。
旧い道沿いには写真のように、大きな木が植えられていることが多い。
というよりは、当時植えられていた並木道が今に大きくなって残っているということになる。
これは旧い道を探す場合の大きなヒントになる。



左：袖ヶ浦市高谷

(今来た道を振り返った写真)

畑の左の約10m下に住宅街が望まれる。
道に添って木が植えられている。
この地点の標高は約40mであ



左：袖ヶ浦市高谷

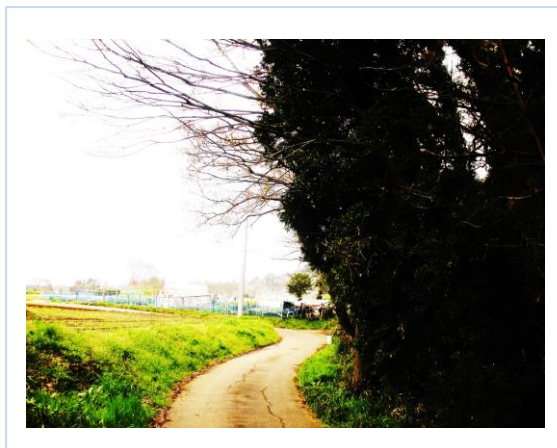
今では畑作に通う農家の方たちの道になっているが、車が通れるところもある。

右： 袖ヶ浦市高谷



左：袖ヶ浦市高谷

農道から舗装道路に出る。
ここからは生活道路でもあり、車も通れる。



右：袖ヶ浦市高谷

久留里西往還・表はやがて緩い下り坂を通り、「高谷堰」に出る。
「高谷堰」は、川が流れていない近郊の田圃の水の供給源になっている。





左：袖ヶ浦市高谷
高谷堰下の集会所。
歩きで通る度に、よくトイレを利用させてもらった。

右：袖ヶ浦市高谷
高谷堰堤
奥に見える小山は、標高約40m
で久留里道の通っている所で、
今歩いてきたところである。



左：袖ヶ浦市高谷
地図を見ると「高谷堰」にな
っているが、写真にあるように
「藤井 野里 堰
竣工記念碑」
と銘記されている。

右：袖ヶ浦市高谷

堰を通り過ぎると、やがて緩やかな登り坂になり、現在の久留里街道に向かう。



右：袖ヶ浦市高谷

この辺りは堰の海拔高度24mからすると大分高台になり、水稻の栽培は不可能で畑作が行われている。

海拔高度約32mである。



右：袖ヶ浦市高谷

「久留里西往還」更に進むと、現在の久留里街道に合流する。

現在は更に北側にバイパスが設けられ住宅街を通らない道になっている。

ここの三叉路から先の、「久留里西往還・表」は久留里往還となり久留里城に向かう。